

小動岬

連作和歌 百首歌集

2009/4/21-5/14

8401	薫風や憂き日々無念義経の腰越ここは小動(こゆるぎ)岬	重陽	4月21日 05時28分
8402	遠見つつかの山藤にいたる道つひになければ恋ひわたるかも	かわせみ	4月21日 05時57分
8403	遠山も垂れ込める雲もねずみ色今日は素直になるしかないか	たまこ	4月21日 06時56分
8404	荒磯の恋路が浜に日の射して岩をくりぬく自然の力	くりおね	4月21日 06時58分
8405	一瞥に変わらぬ浜も波の間に深く浅くと砂は生きてる	重陽	4月21日 08時11分
8406	茶碗酒のなかに咳をしまひこむ独り放哉海を見てみた	真奈	4月21日 10時46分
8407	いみじくも花の盛りの春は過ぎまがきの島に舟こぎはてむ	光源氏	4月21日 13時21分
8408	あかんべえと人界笑ふ鬼瓦を見にぞ行かんよ阿波の徳島	たまこ	4月21日 18時45分
8409	わたつみの波間に見えしたまゆらの露ぞこぼるるあはの夕暮れ	光源氏	4月21日 21時07分
8410	永遠の動く似姿 一行の歌に触れあふ 心玉響(たまゆら)	丹仙	4月21日 22時36分
8411	いまこの宇宙の中心点にいてころふれあうことの愉しき	くりおね	4月22日 07時19分
8412	亡き父の遺しし地球儀掌にのせて薄れし海の青さを映す	たまこ	4月22日 23時47分
8413	亡き母の古き手紙はいずれにも伝え確かむ” 元気” という字	重陽	4月23日 09時02分
8414	わび濡れて過ぐすじまの歌語りかかる無常に夢は残るや	光源氏	4月23日 20時41分
8415	真夜中の蛇口の水が洩れる音孤独を音で表すならば	たまこ	4月23日 23時19分
8416	星ばかり食べて眼ばかり澄みてをり何者になるか日々の挑戦	真奈	4月24日 00時16分
8417	星降る夜赤坂公園一大事美男草薙御用々	弁慶	4月24日 05時08分

8418	上司よりもれ伝わり来元気という最大の褒め言葉賜る	くりおね	4月24日 06時59分
8419	善きひとの笑顔のおくにひそむもの壊れやすきはやさしさゆえか	ミヌ	4月24日 16時59分
8420	君の胸に同じ時間と同じ炎が流れているを知るはうれしき	真奈	4月24日 23時07分
8421	風に光る草原のあれ診察に疲れし君が目をやる窓は	たまこ	4月24日 23時50分
8422	真っ白い粉に媚薬を調合す甘くて苦き春の風ふく	くりおね	4月25日 05時33分
8423	春風の吹きつるほどに誘はれて君が袂に涙とどめし	光源氏	4月25日 07時46分
8424	朝からの雨を躡るは春風かひねもす鈍き空に惑いて	重陽	4月25日 18時05分
8425	春の暮れ戻る寒さの身に沁みて有漏の心ぞ昏く沈むる	丹仙	4月25日 21時41分
8426	ゴールデンウィーク初日は雨の地方都市ゼリーの苺は沈みやすくて	たまこ	4月25日 23時21分
8427	雨足の遠ざかりゆく川の岸柳の若葉風に流れて	弁慶	4月26日 11時35分
8428	涙川浮き寝のほどを思ふほど惑ひの舟に添ふるかづらよ	光源氏	4月26日 16時19分
8429	可憐なる白き花なり定家葛執心のはてぞあわれなるかな	ミヌ	4月26日 20時38分
8430	異形なる者の愛なり筆執りて葛の葉裏に書き残しゆく	丹仙	4月26日 21時36分
8431	こむこむと鳴きて去りゆくかなしみを葛原わたる風の癒さむ	かわせみ	4月26日 21時57分
8432	紅色の葛の花咲く細き道宇津ノ谷峠に至る道かな	弁慶	4月26日 22時25分
8433	玉の緒の思ひの深しさねかづら細きたよりを辿りゆくかな	真奈	4月26日 22時51分
8434	二人出会ひ暮らしはじめし洛北を訪へばきらきら日照雨降る	たまこ	4月27日 00時19分
8435	化野の今際の灯りうつろひし回向かさぬる折りの念仏	光源氏	4月27日 11時38分
8436	異変なる冷たき風の鴨川に寄り添い並ぶはいとおしきかな	ミヌ	4月27日 12時09分
8437	春暁の糺ノ森を訪ねれば静寂ときに鳥の囀り	重陽	4月27日 16時42分
8438	朝まだき藁科川に立つ靄におぼろなる影木枯らしの森	弁慶	4月27日 21時29分

8439	御明かしのほのかにすきて見ゆる影見たてまつりし清み心よ	光源氏	4月28日 00時30分
8440	料理用の酒に明るむわが胃かな「じゅげむじゅげむ」と忘れてしまへ	たまこ	4月28日 07時23分
8441	手を合わせゆるりゆるりと繡(ぬ)いの糸撚らば架かれる彼方への橋	ミヌ	4月28日 12時22分
8442	浅草寺の北を東へ墨田川在五中条縁の橋あり	弁慶	4月28日 20時26分
8443	初夏(はつなつ)の風に輝く吾妻橋渡りて出逢ふギャラリー・ア・ビアント	丹仙	4月28日 23時24分
8444	黄瀬川の岩に激しく波しぶく「心」を映す一枚の絵	れんさん有難 う!・真奈	4月29日 04時57分
8445	義経と征夷将軍対面せし黄瀬川の陣の対面石跡	弁慶	4月29日 08時17分
8446	支えられ果たす個展の絵をめぐり再会の友みなありがとう	れん	4月29日 13時14分
8447	喜びの余韻のままに二十四時遥かゆひびく春雷の音	たまこ	4月29日 14時46分
8448	峠越えて音かすかなる春の雷雲は彼方の遠山の上	弁慶	4月29日 16時18分
8449	かすかなる路傍の花を摘みゆかば二億四千万の親見ゆ	光源氏	4月29日 21時34分
8450	ガンジスの暁の祈りはるかなりマリーゴールドひと花もとめむ	ミヌ	4月30日 12時13分
8451	四月尽いつしか山は早緑の燃える如くに風に揺らぎぬ	重陽	4月30日 17時51分
8452	清水につづく二寧の石畳見出だす花は打ちて重ぬる	光源氏	4月30日 20時25分
8453	坂道は石畳が良いそして雨に濡れてゐてほしい かの秋の日よ	たまこ	5月1日 01時21分
8454	夏朝のドウモ広場の賑わいにトマト買ったのは二昔前	重陽	5月1日 18時21分
8455	賑わうはあらたな役目 ウイルスのぶた 人とり とめぐるる熱気	真	5月1日 18時48分
8456	ぶたは今全国的に謹慎中 ヒトに一番似たる因縁	真奈	5月1日 19時17分
8457	ウイルスはこの世の末の警鐘か悲嘆の民は神に祈りし	光源氏	5月1日 20時20分
8458	身の丈にほどよかりける遍路かな京都御室八十八か所	ミヌ	5月2日 01時38分
8459	この春の金閣巡り御室へのサイクリングの一日楽しも	重陽	5月2日 08時51分

8460	プラタナスの若葉きらめくこの朝祈りにもにた誓ひをたてる	たまこ	5月2日 10時37分
8461	からころもくちなし染みる戀の道袖の別れは苦しかるまじ	光源氏	5月2日 19時26分
8462	からころも蜘蛛手の川に咲く花を見れば京の人ぞ恋しき	弁慶	5月3日 20時17分
8463	故郷の小川に我の影させば小鮒がはしやぐどぜうがはしやぐ	たまこ	5月3日 23時50分
8464	無念にも北の港の故郷ははしやぐものなぞなにもなき今	重陽	5月4日 05時42分
8465	曾祖母の在すふるさと城下町龍馬のことを記せし日記	丹仙	5月4日 11時00分
8466	夏山の緑の滴り浴びながら辿りき「竜馬脱藩の道」	たまこ	5月4日 14時45分
8467	森深き川に流れるさざなみの銀河の星のきらめきの音	くりおね	5月5日 10時25分
8468	いくさ逃れ都の星を偲びつつ果てし大山心敬の忌	真奈	5月5日 12時09分
8469	乙女座の淡き星影深き夜の夢のあはひに汝を照らさむ	ミヌ	5月5日 13時37分
8470	天空をわがもの顔に爆発すあのオーロラをわれは忘れず	重陽	5月5日 18時04分
8471	私たち自身を照らす肉身の内なるひかり天に立ちけり (IDEAの画帳に寄せて)	丹仙	5月5日 20時44分
8472	天然に人が加わり自然とす金子兜太に一茶論あり	やんま	5月6日 01時06分
8473	またひとり御霊は天にのぼりけれ花を集めて宇宙(そら)に捧げる (IDEAの画帳表紙)	れん	5月6日 01時18分
8474	悔恨の消ゆることなし純白のカサブランカを捧げてみても	たまこ	5月6日 09時39分
8475	モロッコを旅する人の話きくリュックひとつに浪漫ただよう	くりおね	5月6日 13時54分
8476	エジプトの海に沈みし古代都市クレオパトラへ夢は広がる	重陽	5月6日 15時26分
8477	夢見鳥の濃き黄の色を目におさめ高原下る 強く生きよう	たまこ	5月6日 22時45分
8478	北闕の龍の願いは夢と消えただ苔むした城があるのみ	光源氏	5月6日 22時47分
8479	古りにける法王庁に盛りたる夾竹桃はアビニョンの夏	重陽	5月7日 06時47分
8480	夾竹桃の花あざやかに咲き続く母の記憶の敗戦の日に	たまこ	5月7日 17時32分

8481	グラマンの機銃に追われし麦畑母の記憶は今も鮮明	光源氏	5月7日 20時09分
8482	湖で目覚めし朝の口笛は耳に鮮やか遠き日なれど	ミヌ	5月7日 22時39分
8483	ラジオより澄んだ口笛流れきて戦後と言はれしあの青春（はる）の日々	真奈	5月8日 00時01分
8484	敗戦を終戦という言い換えに割り切れぬもの未だ持つてる	重陽	5月8日 04時50分
8485	おろかなる人間の業踏み越えて我らも未来の礎となる	くりおね	5月8日 07時18分
8486	いしずえとなりて此の世を見守りしかたみに寄する月をながみて	光源氏	5月8日 09時53分
8487	敗戦とは無条件降伏よく知るべし恥かしいことだと太宰は言った	真奈	5月8日 10時55分
8488	“終戦”の悪しき修辭を如何にせん“敗戦”なりと伝たうべきなり	重陽	5月8日 18時11分
8489	たたきのめされはいあがる復興のエネルギーあり偉大なるかな	くりおね	5月9日 06時28分
8490	このときもたたきのめさるる民ありてわれの無力に昏く沈むる	ミヌ	5月9日 09時40分
8491	世の末の日とは思へど真青なる空の拡がり鳴きやまぬ蟬	丹仙	5月10日 20時45分
8492	雲早し箱根湯本の早雲寺ヒメハルゼミの鳴く夕べかな	弁慶	5月10日 21時56分
8493	自らを救ふてだての浮かばないままに夕暮れ 春蟬の声	たまこ	5月12日 00時40分
8494	若き日の相克いつか安らぎぬ人の情けに助けられてし	れん	5月12日 22時27分
8495	安らぎを旨としつつも間歇に吹く苛立ちは 青臭きわが	重陽	5月13日 05時39分
8496	やすらぎを心の糧と思いたき杉良太郎の歌の如くに	光源氏	5月13日 22時07分
8497	荒神鬼畜役の装束厚板の真白き桜に鎮まる心	たまこ	5月13日 22時35分
8498	くるくると花笠廻し舞ひにけり鷺の娘の鎮魂の唄	丹仙	5月14日 16時01分
8499	五月風最上の川も夏模様花笠音頭の出羽の国かな	弁慶	5月14日 16時24分
8500	長良川みだるる波はたゆたふと戀の篝火一夜の夢ぞ	光源氏	5月14日 21時27分